





# 国際交流事業をきっかけに 海の向こうで活躍中の派遣OGからのカナダ国トロントだより

竹下内閣が提唱した「ふるさと創生事業」により、今から約22年前、各自治体に一億円が交付されました。「さて、これで何をしようか？」—イベントやまちのシンボルづくり、宝くじを買った自治体まで現れた中、名取市が選んだのは「人材育成事業」。学校におけるコンピュータ教育と、中学生海外派遣事業でした。

平成3年、中学生海外派遣事業の実施母体として「名取市国際交流実行委員会」が組織されます。この委員会の主催により、平成3年度から21年度まで17回の派遣が実施され、延べ390人を超える生徒たちが「五感で感じる国際交流」を体験してきました。今年度についても来年3月のカナダ派遣に向けて準備を進めています。

多感な中学生時代に国際交流を体験した生徒たち。彼らはどのような人生を歩んでいるのでしょうか。派遣団員OB・OGの中から、平成11年度の派遣団員で、現在カナダでソフトウェア開発会社でシステムエンジニアとして働いている金本沙織さん(みどり台中出身)からお便りをいただきましたのでご紹介します。

私がカナダへ来ることとなった背景には、名取市の国際交流がありました。中学二年生の春にカナダへホームステイ。高校二年生の春にはオーストラリアからのホストファミリーとして、国際交流事業に参加させていただきました。楽しかったことはたくさんありましたが、今でも鮮明に覚えているのは言葉や知識の差からくる悔しさです。カナダのトロント市へ留学後も、幾度となく同じ壁にぶつかり落ち込んでばかりいましたが、その多くはこのときの経験をばねに乗り越えられたといっても過言ではありません。学校を卒業した後は、トロント大都市圏のソフトウェア開発会社でSEとして働いています。



ダウンタウンの歩道。芸術性豊かなトロントの街並みです



トロント市は、カナダ東部オンタリオ州の州都です。ユネスコが設定する世界一人種の多い都市で、訪れる人がみな口を揃えて話すのはその多種多様な文化について。道一本ごとに様変わりする街並みからも、移民だけでなく、二世、三世、ミックスなど多くの人がそれぞれの民族を大事にしている様子が伺えます。またモザイク文化・リベラルな都市としても有名で、プライドパレードにも見られる社会福祉活動は非常に盛んです。芸術産業が発達しており、長い冬を終えた春先や過ごしやすしい夏は、アート、フィルム、ストリートミュージックなどのイベントが毎日のように行われています。



(上)オンタリオ湖で好きなヨットを楽しみます  
(下)右から3番目が沙織さんです。これからますますの活躍が期待されますね

この国際色豊かな土地で学んだことが三つあります。一つは日本人というアイデンティティの大切さ。もう一つは、地球人として物事を見る重要性。そして最後に、主体性が生きる上では欠かせないということです。一見、相反するような三点ですが、このバランスをいかに保つかが自分の今後の課題でもあります。今では言葉そのものか、もしくはそれ以上に肝要なことだと日々痛感しています。

このようなすばらしい経験を得るきっかけを作ってくださった名取市の皆さんには大変感謝しています。今後も国際交流事業を通じて、人と人のさまざまな可能性が広がってゆくことを信じています。本当にどうもありがとうございました。



道場で体育の授業。柔道着に着替えてまずは受け身の練習から。とても上手にできました



こちらは文化祭の準備中。クラスの人々と一緒に折り紙の鶴を折りました

あつとという間に楽しかった五日間が過ぎ、九月八日水、とうとう名取市出発の日となりました。名取駅に集合したマウンテンウェイバリー・セカンダリーカレッジの生徒とホストファミリーの皆さんは、別れを惜しみながら、記念撮影や会話を交わしておりました。

## 涙のお別れ

きつとオーストラリアに帰ったときにその絵がみを見て、名取での出来事を思い出すことでしょう。



とうとう名取駅を出発。ホームの外からの見送りに涙する生徒たち

訪問三日目は市内の中学校に登校し、学校生活を体験しました。各クラスで授業に参加したり、九月十一日に開催される文化祭の準備を手伝ったりしました。体育の授業ではオーソドックスでも人気がある柔道をしており、柔道着に身を包んだマウンテンウェイバリー・セカンダリーカレッジの生徒たちは暑い道場の中、一生懸命授業に参加していました。始めは戸惑っていた生徒たちでしたが、いつの間

## 名取を満喫

かニックネームで呼び合うほど名取の生徒たちと溶け込んだ訪問四日目には国際交流協会一同で、市内見取「文化体験の行事に参加し、重要文化財の学芸員の家を訪ねて、お茶会や味作るところを見学しました。また訪問先は絵がみ作ても体験し、出がけの絵がみ作ても体験し、トリア郵便局の自宅へ送られました。

(右)洞口家住宅でお茶会。結構なお手前でした



笹かま工場を見学。出来たての笹かまのお味は「Very good!」

出発の時間となり、こみ上げてもまた溢れ出る光景が、感謝の気持ちを伝えることができました。電車名取駅を出発した後も、マウンテンウェイバリー・セカンダリーカレッジの生徒たちが別れを惜しんで泣いている姿を見て、とても素晴らしい交流ができた。最後に忙しい中、マウンテンウェイバリー・セカンダリーカレッジの生徒たちを引き受けていただきました。ありがとうございました。